

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育)

法人名 京都大学 学部・研究科等名 理学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 : IV「学業の成果」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 : 学業の成果に関する学生の評価

平成 21 年度に実施された授業評価アンケートでは、学生が授業に概ね満足し、意欲的に取り組む姿を浮き彫りにしている。

満足度を 100 点満点で表す項目では、80 点以上の点数を付けた学生が理学部全体で 6 割近くにのぼり、60 点以上になると 9 割近くに達する（設問 1）。

約 4 分の 3 の学生が教員の熱意を感じ（設問 2）、6 割近い学生が授業に意欲的に取り組んだとしている（設問 3）。その結果、69% の学生が授業内容に関連する分野への関心が増したと答えている（設問 4）。平成 19 年度に行われた同様のアンケートと比較すると、充実した講義という伝統により満足度はほぼ変わらないが、意欲的に取り組んだ学生は約 1 割増加し、57% となり、また、関連分野への関心が増した学生も漸増し 69% となった。このように、理学部では授業に対する高い満足度を維持し、学生の意欲を引き出すことにも成功している。

授業評価アンケート

